

ふくし ふれあい

CONTACT WITH WELFARE

冬号
2016年
1月1日
No.64

発行 一般社団法人 熊本県労働者福祉協議会 発行者 上田 淳 編集者 末長 孝 E-mail rofuku@lime.ocn.ne.jp
事務局 熊本市中央区九品寺1丁目17-9 熊本県労働会館内 TEL 096-372-0915 FAX 096-372-0600
http://kumamoto.rofuku.net/

謹賀
新年

連帯・共同で安心・共生の福祉社会を

一般社団法人 熊本県労働者福祉協議会 理事長 上田 淳

2016年、新しい年を迎えるにあたり、謹んでごあいさつを申し上げます。

昨年1年間、労働者福祉の向上、労福協事業体の事業推進にご協力をいただいたすべての皆さんに、心からお礼申し上げます。

さて、中央労福協は昨年11月27日、第62回定期総会を開催し、「連帯・共同で安心・共生の福祉社会をつくろう!」スローガンを引き続き確認しました。

今、若者は雇用環境の劣化と奨学金問題、高齢者は「下流老人」「老後破産」といわれる生活不安、さらに生活保護受給世帯は160万世帯を超え、雇用の分野では、非正規労働者が4000万人を超える



など、貧困・社会的孤立・雇用形態による格差の拡大など、社会不安は増大の一途をたどって

います。

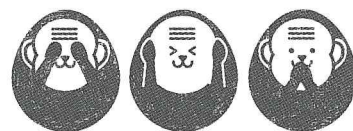
今こそ、労福協が唱える「連帯・共同でつくる・共生の福祉社会」の実現が求められています。

総会で確認した「社会的連帯を深める運動と政策の実現」「暮らしの総合支援運動の深化」「労働者自主福祉運動の機能を発揮するための基盤強化」の3つの運動を前進させていかなければなりません。

熊本県労福協でも、私たちの共助の輪をより充実強化を行うとともに、この共助の輪を広げ、すべての働く人たち、生活者のよりどころとなるよう運動を前進させていく所存です。

昨年にも増して、労福協運動、そして労働者福祉事業体の事業基盤強化に向け、皆様のご理解とご協力をお願いします。

2016年がみなさんにとって良き年となりますよう祈念申し上げ、年頭のあいさつといたします。



明けましておめでとうございます。今年も元気で頑張ります

役職名	氏 名	選出団体	役職名	氏 名	選出団体
理 事 長	上 田 淳	連 合 熊 本	理 事	友 田 孝 行	連 合 熊 本
副理事長	田 北 尚 勝	連 合 熊 本	理 事	古 庄 栄 次	連 合 熊 本
副理事長	手 嶋 一 弘	福祉事業団体	理 事	山 本 寛	連 合 熊 本
副理事長	田 川 仁	福祉事業団体	理 事	境 徳 幸	連 合 熊 本
専務理事	末 長 孝	連 合 熊 本	理 事	田 中 広 幸	福祉事業団体
理 事	梶 田 秀 治	連 合 熊 本	監 事	島 崎 真	連 合 熊 本
理 事	佐 々 木 義 博	連 合 熊 本	監 事	石 井 雅 臣	連 合 熊 本
理 事	今 村 賢 治	連 合 熊 本	監 事	吉 本 安 則	福祉事業団体

2015年度 連合熊本・熊本県労福協が合同研究集会

連合熊本と県労福協は昨秋11月25日、ホテル熊本ニュースカイで2015年度合同研究集会を開催、約100人が出席しました。



▲上田理事長

県労福協理事長を務める連合熊本の

上田会長は、県内でも生活苦などで自殺者が増えていることにふれ「自立できる支援が課題、自治体や国政に求めていく。安倍政権は1億総活躍社会を掲げているが、労働基準法の一部改正や、格差拡大につながる経済政策を打ち出している。政治を変えていく運動に参加してほしい」と訴えました。



奨学金問題が若い世代に多重債務と貧困を

「労福協の運動課題に」

中央労福協 事務局長 大塚 敏夫

今回の「特別報告」は中央労福協の大塚事務局長が「奨学金問題に対する課題と今後の取り組みについて」と題して、講演しました。

■なぜ奨学金問題に取り組むのか、労福協が取り組んだ貸金業法の改正で大きな成果を挙げたが、奨学金を借りている若者たちが、返済に追われ新たな多重債務と貧困を生み出している。

■奨学金問題は受益者負担主義に基づく教育政策と、雇用破壊をもたらして

いる労働政策の矛盾が顕在化したもので、雇用問題を焦点化していくことが必要となっている。

■親の経済力によって子どもの教育を受ける権利が左右されてはならない。貧困の連鎖を絶つ視点から、子どもの貧困対策



▲中央労福協 大塚事務局長

とも一体化して取り組む。

■中間層解体の危機、少子化・人口減を加速し、持続不可能な社会になっていくことから、社会全体で若者支援、人材育成、投資が必要になっている。

■日本育英会時代は無利子貸与だったが、現在は有利子制度が導入されたことから、就職後は非正規雇用により約20年ほど返済に追われる。今後、署名活動や政策提言、国、自治体の議員要請、相談体制などに取り組んでいく。

講演 幸せを引き寄せる笑いの活用法をテーマに

笑癡学研究家の小ノ上マン太郎氏とDr.シャリフル氏

次に「幸せを引き寄せる笑いの活用法」と題して、笑癡学研究家・博多笑い塾長の小ノ上マン太郎氏と、バングラディッシュ出身の医学博士のDr.シャリフル氏が、病気になる生き方をするため、ガン細胞を抑える笑いという笑薬を生活にとり入れよう、考え方を変わようと講義しました。

労福協の研究集会のテーマとしては今までになかった内容だったため、出席者は関心を持って聞き入りました。

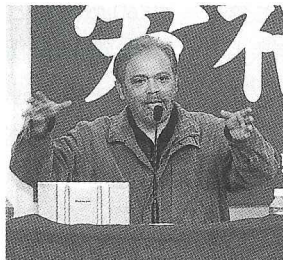
小ノ上マン太郎氏とDr.シャリフル医学博士は交互に、ガン細胞を抑える話をパワーポイントを活用して話しました。

■人間の心は身体のどこにあるのか、心は脳にある。脳の心は脳辺縁系にあり、それは扁桃体にある。いろんな刺激は目や耳から入り、扁桃体に入る。扁桃体の近くには記憶をもつ海馬がある。タクシー運転手は海馬が発達する。

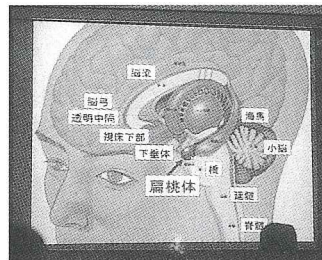
■扁桃体はどんな刺激を好むか。普通の身体はアルカリ性だが、酸性もあり酸



▲笑癡学研究家 小ノ上マン太郎氏



▲医学博士（脳の形態学） Dr.シャリフル氏



▲脳にある扁桃体の役割をパワーポイントで説明

性がガンになりやすい。アルカリ性を守ることに心がけたらガンになりにくい。色を含んだ野菜や果物はアルカリ性を多く含んでいる。

■気持ちがいいこと、楽しいことなどいい刺激を与えたら扁桃体は喜ぶ。悪い刺激は良くない。笑いや感動、感謝の心や手を合わせる行為などが免疫力を高める。深呼吸は悪い物を吐き出す。笑う門には福来たるの言葉もある。

■細胞分裂はガン化していく。悪いことばかり考えたり、クヨクヨしたり悲観的に物ごとを考えるのは良くない。

■20世紀は物、金中心で生きてきた。

21世紀は物欲をなくし、笑いを大事に、感謝の気持ちを持つとパワーが生まれる。自分を信じるのが自信となる。



▲講師の話に聞き入る出席者たち

九州労金
県本部

新しいろうきんビジョンの具体化を



▲熊本県本部
吉本副部長

九州ろうきんの当面の取り組みは、①あしなが育英会支援キャンペーン②教育ローン(2016年3月31日まで)です。会員さんへのPRを。

労働金庫は2015年度から10年間、新しいろうきんビジョン～人々が支えあう共生社会の実現のために～をスタートさせた。この内容は「勤労者をとりまくこれからの環境」として、少子・高齢化と人口減が進み、社会保障制度の機能低下による懸念が高まっている

こと、こうした情勢をもとに労金めざす姿として、①勤労者の生活を生涯にわたってサポート、②非営利・協同セクターの金融の中核としてその役割の発揮、③人と人、人と地域をつなぐことを通じて、共生社会への貢献。非正規労働者の増加と拡大が進む中、非正規労働者の皆さんに共感してもらえよう、課題解決に取り組んでいく。

金融業界では肥後・鹿児島両銀行の経営統合で、九州全体に影響を及ぼしていくと予想される。熊本では住宅ローンの割合が8割を占めている。今年度は無担保融資の拡大などしあわせ創造運動の展開を積極的に進めている。

全 労 済
熊 本

低い県内の加入率のアップを



▲県本部
和泉事業推進部長

昨年8月25日の台風15号の熊本県下の被災受付件数は約5,300件、支払い総額は約15億円の見込み。全国動員を行い、迅速な対応に努めた。

熊本県本部の現状は全国の民力順位では23位だが、全労済内では契約高32位だ。火災共済は県内の約74万の世帯数に対して6%の普及率で、全国で43位の順位だ。マイカー共済は県内の135万台の自動車台数に対して1.2%の普及率で、全国で

42位の順位だ。この現状を踏まえて取り組む課題は普及率の低い「火災共済・自然災害共済」「マイカー共済・自賠責共済」の推進強化だ。推進ポイントは組合員から共感・納得いただける分かりやすい推進活動の展開だ。この間、損保各社が地震保険、火災保険、自動車保険の保険料を値上げした。「火災共済・自然災害共済」の制度の素晴らしさをより多くの組合員に訴求していきたい。「マイカー共済・自賠責共済」は見積もりキャンペーンを展開していく。組合員とその家族のために、労働者福祉運動の発展＝普及率にこだわった推進活動を強化していきたい。

ユニオン
トラベル
熊 本

下半期に受注拡大を



▲猪塚専務理事

第47回 通常総代会以降、旅行会社としての認知度の拡大、交通事故撲滅、手配ミスゼロによるお客様サービスの向上、一般管理(経費)の効率的運用などを方針として取り組んだ。

4月から9月までの上半期は、昨年度の全国大会がなかったことや、貸切バスの新運賃・料金制度導入に伴う受注件数の減少、各産別・単組の周年大会等の減少で前年比で下回っている。

独自の企画商品は夏のグルメツアーや、日帰り野球観戦ツアー、ビアパーティーなど健闘したが、団体の受注が前年比40.8%となっており、極めて厳しい状況となっている。

従って今年度下半期(10月～3月)は、忘・新年会キャンペーン展開による受注拡大による収益確保、営業活動強化を図り、団体はもとより組合員個人を含めた忘・新年会、歓送迎会の完全受注の取り組み、下期3本の独自ツアーの早期計画、販売による収益の確保、拡大の取り組みなど、役職員一丸となって営業活動を推進していきたい。

喫煙

今年の夏に執行される参議院議員選挙から、18歳以上が選挙権を行使することになる。全国の高校ではこの制度導入に向けて「主権者教育」が本格化している。熊日新聞12月21日付は神奈川県・湘南台高校が、集団的自衛権も教材にしたり、多くのテーマを議論して賛成、反対の採決をとるというハイスクール議会の内容を伝えた。神奈川県ではシチズンシップ教育(シチズン=市民が政治体制の構成員であることを指す懸念)を、「積極的に社会参加するための能力と態度を育成する実践的な教育」と定義して、2010年度は全ての県立高校で模擬投票を実施し、2011年度から本格導入し①政治参加教育、②司法参加教育、



ブラック企業にたまさ
れないように学生にも
労働3権の教育を。

③消費者教育、④道徳教育を4本柱に位置付けている。このシチズンシップ教育が全国に広がることを期待したい■この4本柱にぜひ加えてほしいのが、労働基準法などの労働3法と、団結権、団体交渉権、団体行動権の労働3権だ。高校を卒業して就職する人も、大学に進学してアルバイトする人も、この労働3法、労働3権を知らないとブラック企業の餌食になってしまうからだ。昨年も過労で自殺した女性がいたが、とにかく無茶苦茶にこき使われる。なかには店長に指名して責任感だけ重くし、低賃金・長時間労働と法律違反を重ねている。前途有望の若者たちが人生のスタート点で心身ともに疲れ果ててしまうことをやめさせよう。



▲ライフサポート
センターくまもと
森岡理事

ライフサポート
センターくまもとの
2015年度(2014.
12.1～2015.10.
31)の労働相談
件数は255件(男
性51.8%、女性
48.2%)で、労働・
雇用関係が大半を占めた。年代は40
代35.27%で一番多く50代、30代と
続いている。相談者はパート、正社員
が73.65%と一番多い。ライフサポー
トセンターをなんで知ったのかについ

ては、WEBや新聞、雑誌、ラジオ、テレビ、
チラシ配布の広報によるものだが、労
働基準局や警察からの紹介もある。相
談内容で多いのは雇用関係(解雇、退
職強要など)賃金問題、労働契約(雇
用契約、就業規則など)労働時間関係と、
セクハラ、マタハラ、パワハラ・嫌が
らせの相談が増えた。

対応完了は144件(56.5%)継続
は106件(41.6%)となっている。

福祉事業体の報告後、連合熊本の
佐々木事務局長が、「本日の研究集会
で、社会の底辺にいる皆さんたちに目

を向けた運動を広
げることが大切だ、
ということを再認
識した。安倍総理
は最低賃金を千円
にと言っているが、
政争の具にしてい

る。私たちの幸せ
はお金の問題だけでなく、心の問題に
ついて勉強した。連合と労福協は車
の両輪として、これからも運動を」と
述べました。



▲連合熊本
佐々木事務局長

医療法人社団 熊本労安会

秋津レークタウンクリニック

いのちと健康が
なによりも大切にされ
一人ひとりが
かけがえのない
存在として尊重される
そんな医療と社会を
めざしています

■診療科目／内科、小児科、リハビリテーション科、居宅介護支援事業

- 理事長／木村孝文
- 院長／山口秀樹
- 入院／無
- 駐車場／有

受 付	午前	月曜日～土曜日／9:00～12:00
	午後	月曜日～金曜日／2:00～6:00
		土曜日／1:30～3:00
		※ただし、木曜の午後と土曜日の午後は 鍼灸はお休みです。
	休診日	日曜日・祭日

〒861-2105 熊本市東区秋津町秋田3441-20 ☎368-6007

ユニオントラベル熊本からあなたへ



グループ旅行や
家族旅行におすすめ!

冬 ユニオントラベル熊本
の特選ツアー

話題の **新鮮! 安全! 栄養豊富!**

糸島かきとマリノアシティ福岡日帰りツアー

出発日: 2016年3月19日(土)



春を先取り 旬のイチゴ狩りへでかけよう!



出発日: 2016年3月12日(土)

第22回城島酒蔵びらきたっぷり5時間バスツアー

出発日: 2016年2月13日(土)

詳しくはホームページまたは営業担当者にお問い合わせください。

お問い合わせは



生協法人 **ユニオントラベル熊本**

TEL(096)371-2022
FAX(096)363-2866

熊本市中央区九品寺1丁目17-9 熊本県知事登録2-34号 総合旅行業務取扱管理者 堀内 淳

編集後記

昨年を振り返り思い出される主な
ワードとしては、「イスラム国、ドローン、
安保法案、台風被害、偽装不正問題、
マイナンバー、ラグビー日本代表」
などが記憶に残っているのではない
でしょうか。全体をみても近年はあま
り良い出来事がないようです。

さて、労福協は一昨年から生活困
窮者自立支援法への対応や、奨学金
制度改善を求める取り組みを行って
います。低年金生活者も含め、生活
に困窮し支援が必要な人々が多くい
る現状を踏まえ、国はこれらの人々を
社会全体で支える実効ある政策を優
先すべきと思います。しかし、私たち
の思いと裏腹に、財政支出の配分を
みれば、結果として格差社会を黙認
する基本政策になっています。労福
協は、安心出来る豊かな共生社会実
現のために本年も取り組みを続けま
す。本年も労福協活動へのご協力を
よろしくお願いします。(T.S)